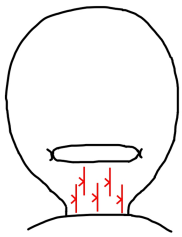
前置胎盤に対する子宮圧迫縫合を用いた止血術
-DATE press needleを用いたvertical compression suture(VCS)-

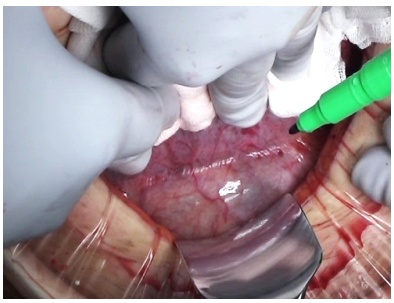
東北大学病院
周産期医学分野
婦人科学分野
富田　芙弥　先生

弱弱弱弯(1/8R)形状で抜き易く
針の先端は鈍針でより安全に
糸の長さは90cm
1本あたり定価で1,200円

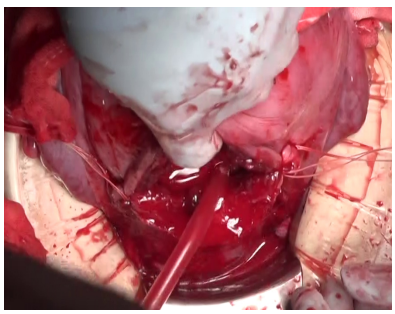
(DATE press needle形状)

【症例】
妊娠37週　辺縁前置胎盤のため予定帝王切開を施行。
子宮頸部からの出血が持続しており、子宮頸部にVCSを5針施行して止血が得られた。
執刀医は産婦人科専攻医で初めて子宮圧迫縫合を行った。
術中出血量　1785g, 手術時間1時間35分

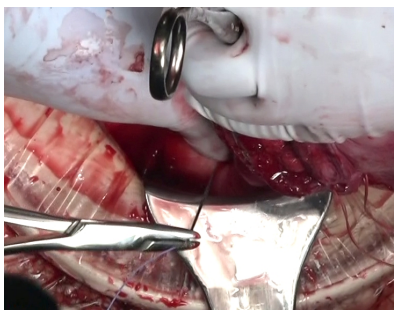




1）　膀胱剥離
＊本症例は子宮圧迫縫合の可能性を考え、胎児娩出前に膀胱剥離操作を行った
- ✓ 膀胱留置カテーテルから生理食塩水100mlを注入し、膀胱上縁を確認した。
- ✓ 膀胱上縁の直上から膀胱子宮窩腹膜を切開し、膀胱を下方に剥離した。

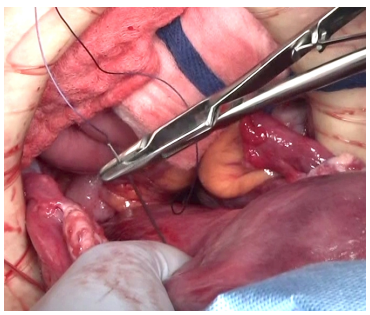


2）　子宮切開創両端の縫合・VCS縫合の準備
- ✓ まずは通常の帝王切開と同様に子宮切開創の両端を縫合した。
- ✓ その後も出血が持続し、VCSを施行する方針とした。
- ✓ ダグラス窩の腸管をタオルを用いて上方へ避けた。

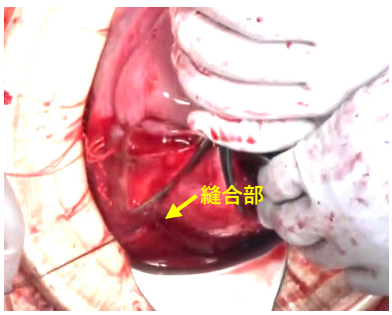


3）VCS1針目-前方から後方-
- ✓ 第一助手(患者みぎ)が剥離した膀胱の直上から子宮頸部をDATE press needleを用いて前方から後方に刺通した。

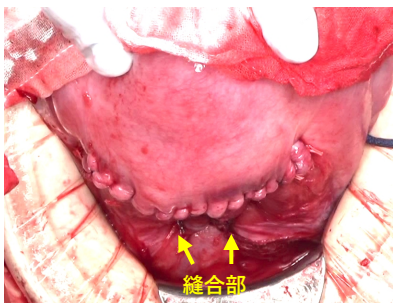
＊専用に設計された1/8Rの針のため、簡単に頸部を貫通することができる。鈍針ではあるが組織貫通性がよく、初心者でも容易に運針できる。



4）VCS1針目-後方から前方-
- ✓ 執刀医(患者ひだり)が子宮切開創の3cm下方に出るように、子宮頸部をDATE press needleを用いて後方から前方に刺通した。
- ✓ 第一助手(患者みぎ)がペアンで出てきた針を保持した。



5）VCS1針目-確認と結紮
- ✓ 糸がダグラス窩の腸管を巻き込んでいないことを確認し、糸を結紮した。



6）VCS-子宮創部縫合後
同様にさらに4針の縫合を行い、止血が得られた。
その後、子宮切開創を閉創した。

製品番号:D65CV11QH-90
規格:鈍針65mm 糸号数 1号　弱弱弱弯
糸長　90cm
定価:¥14,400/箱　12本入/箱
JANコード:4544607156266　クラス分類:Ⅳ
一般名称:ポリグリコール酸縫合糸
医療機器承認番号:23000BZX00205000

株式会社ベアーメディック
本社工場 〒319-3526 茨城県久慈郡大子町大子1361
東京営業所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ベアービル
TEL.03-3818-4041(代) FAX.03-3818-4042
その他の商品に関する情報はホームページをご覧ください。
http://www.bearmedic.co.jp

製品に対するお問合せ